

KANAGAWA

一般社団法人 神奈川県建築士事務所協会

<https://www.j-kana.or.jp/>
email: info@j-kana.or.jp



11

November , 2023
vol. 447

令和6年5月号より会員寄稿

『わが恩師を語る』の連載が始まります。
詳細は裏表紙を参照して下さい。



Contents

特集 無印良品が考える空間づくり	01
建築探訪 (直島・豊島・犬島の建築)	03
特集 わがまちの美術館・博物館・郷土資料館	05
委員会活動報告	
(木造特別委員会「木造建築物の基本講座1・2」)	07
委員会活動報告(景観・まちづくり特別委員会 まち歩き)	08
賛助会だより	09
支部のページ(座間支部・藤沢支部)	11
編集者のつぶやき(呑み鉄旅)	14

瓦版は2021年12月よりWeb配信となりました。

特集 無印良品が考える空間づくり

第4回 無印良品の小屋

株式会社良品計画 空間設計部 喜多見 智子

2017年に発表された「無印良品の小屋」。

廃校をコンバージョンして誕生した多目的施設に併設して、最初の小屋は建てられました。

「気に入った場所で暮らす」という、誰もが持つ小さな憧れを一つの形にした、別荘ほど大きくなく、旅ほど単純でもない暮らしの提案です。

私はこの小屋の販売担当をしています。

「無印良品の小屋」は屋内9㎡、縁側3㎡合計12㎡の小さな建物です。しかしながら、ベタ基礎、木造在来工法で建てます。出来上がったものを設置するだけの小屋ではありません。本物の小さな家です。

お客様からいただく質問には、何に使えるの？という質問から具体的に建てるためにはどのようなしたらよいか？というもので様々です。

しかし共通しているのは、小屋という存在をみなさんが少しずつ身近に感じ始めているという事だと感じています。

コロナ禍を経て、多拠点居住をする方は増えていると聞きます。仕事に便利な拠点と、アクティビティに便利な拠点を持つ考え方が定着したのではないのでしょうか。実際に「無印良品の小屋」に、そのようなお問い合わせが途切れません。

1



北欧では夏休みになると自宅から離れた場所に建つ小屋で、一時を過ごすという習慣があります。少し北欧の夏休みの過ごし方を紹介します。

彼らは家族で共用の小屋を保有しており、夏休みなど長い休暇をそこで過ごします。そのことから夏小屋とも呼んでいます。

この夏小屋は例外もあるかもしれませんが、とても簡素な作りになっています。電気やガスは無く、地面を掘った地下の穴を冷蔵庫にしたり、キャンドルを灯して明かりをとったりしています。薪を割り、料理はそれを燃やす熱を利用して作ります。

初めてそのことを知った時、私は、なんて大変そうな生活なんだろう。と思いました。

しかし、体験してしまったら、こんな素敵な生活はありません。

森にベリーを積みに行き、薪のオーブンでケーキを焼き、その熱でお湯を沸かし、コーヒーを淹れる。そして、もちろんテレビなんて見る事もなく、家族でおしゃべりをしながら手作りのケーキを食べながらコーヒーを飲む時間を楽しむのです。

さまざまな遊びがあふれている現代で、失われてしまった尊い時間の過ごし方だとは思いませんか。



2

無印良品が提案する「別荘ほど大きくなく、旅ほど単純でもない暮らし」では、それが容易に実現できるものだと思います。

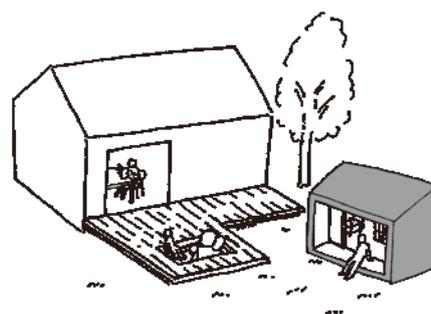
実際に多拠点居住の一つとして「無印良品の小屋」を選ばれた方々は、小さな小屋の前にウッドデッキを作り屋外リビングを有効に活用し、小屋生活を楽しんでいる方もいらっしゃいます。

オンオフの切り替えに通っていらっしゃる方もいます。

庭の一面に建て、ご自身の城として使っていらっしゃる方もいます。

使い方は、人それぞれ、その方次第。

そんなまっさらな箱が、無印良品の小屋です。



直島・豊島・犬島の建築

白鳥建築設計研究室 白鳥 勝彦

この数年続いたコロナ禍で建築見学を控えていたこともあり、数年前に訪れた瀬戸内海の直島、豊島、犬島の建築をご紹介します。アートや建築好きには見どころ満載の島々です。

●直島文化村構想

福武書店を創業した福武哲彦社長が直島文化村構想を抱き、それを継承した現ベネッセホールディングスの名誉顧問である福武聡一郎が1987年直島プロジェクトをスタートさせ、安藤忠雄にベネッセハウスの設計を依頼したのは有名な話です。

その後直島プロジェクトは豊島、犬島に広がり人気の観光地となっ
ていきますが、建築では石井和紘氏が手掛けた直島小学校(1970)、直島幼児学園(1974・1983)、直島中学校(1979)、ポストモダンの代表ともいえる直島町役場(1983)など古くから注目された建築が建てられてきた島です。

この瀬戸内海の島には新しいものを受け入れる土壌があったので
しょう。



直島町役場

3

●李禹煥(リ・ウファン)美術館(2010 安藤忠雄)

直島には安藤忠雄の設計による建物が多数あり、李禹煥美術館は同島の地中美術館と同じく地下に埋め込まれた建築です。展示室は新しく製作された作品のために設計されたそうで、研ぎ澄まされた空間は李禹煥と安藤忠雄が作り上げた緊張感が伝わってきます。

山に囲まれた敷地を巧みに利用した配置計画となっており、正面から見るたたずまいにとっても惹かれました。



李禹煥美術館

●護王(ごおう)神社

(2002 杉本博司)

護王神社は直島に古く(1669年頃)から鎮座しており、旧建築の老朽化により修復計画が開始され杉本博司に設計が依頼されたそうです。



護王神社

拝殿の地下には石室がある驚

く構成になっており、石室から本殿に続くガラスで作られた階段は上部から入る光を透過し神秘的な印象を受けました。



護王神社石室

また、石室から続く真っ暗な隧道を抜けると瀬戸内海が開け、杉本氏の写真作品「海景」を思い起こさせ、江之浦測候所の「冬至光遥拝隧道」に続いていく作品だと思いました。

●豊島美術館（2010 内藤礼・西沢立衛）

豊島は1970年代より産業廃棄物による土壌汚染など環境破壊に苦しめられ、2000年に香川県と公害調停が成立したものの汚染地修復は今も続いています。

その島の棚田が美しい風景の中に宇宙基地のような白く浮かぶ建物が豊島美術館です。

内藤礼の作品「母系」はほんのわずかに傾斜した床のところどころから染み出る水滴の動きを建築空間、自然と共に鑑賞するもので、水滴の流れる様子をずっと見ても飽きることなく気持ちが落ち着き、時の経つのを忘れてしまう体験となりました。

見たことのない光景が広がりまさに体感して初めてわかる空間でした。

ちなみに建築が先に決定され、その後作品を内藤礼に依頼したそうです。一人の芸術家の作品を展示する美術館はありますが、建築自体が芸術家の一つの作品ともなっている建築に感動しました。



豊島美術館 カフェ・ショップ



カフェ・ショップ

●犬島精錬所美術館（2008 三分一博志）

犬島は江戸時代より花崗岩の採掘場となり土地が削られ、明治期には銅の精錬所が作られて公害が起きた歴史を持っています。

犬島精錬所美術館は100年近く廃墟となっていた銅の精錬所を美術館として再生されたプロジェクトです。残された建築の力を引き出したデザインと既存の煙突等の施設と自然の力を利用して電気や機械を使わずに空調するシステムを構築しているのは興味深かったです。



犬島精錬所美術館

ここに挙げたのは数えきれない芸術作品や建築のほんの一部です。

島々には歩くと楽しい古い街並みと美しい自然があります。そして新しい建築が人々の交流を生み島の魅力を引き出しています。

豊島、犬島の様に時代に翻弄されてきた島の再生にも寄与している一連のプロジェクトは一見の価値があると思います。

特集 わがまちの美術館・博物館・郷土資料館

川崎市立日本民家園

川崎支部 株式会社創信建築事務所 森本 和樹

民家は伝統的な形式の民衆の住まいです。日本の民家は気候、風土、階層などと深く結びつき、全国各地に様々な特色を生み出しました。

「川崎市立日本民家園」は急速に消滅しつつある古民家を、永く将来に残す事を目的とした施設です。日本各地より25棟の建物を移築しました。400年前の民家もあります。

民家には、昔の生活を感じられるように、農具や生活用具類を展示しています。建物内を見学できる民家もあり、ボランティアの方が、建物の耐久性維持のために、毎日2～5棟の民家の囲炉裏で火を焚いています。もちろん、建物の説明もして頂けます。

日本民家園は、自然豊かな生田緑地にある施設です。その中に存在する民家は、長い年月にわたりはぐくまれた、建物の美しさを感じさせます。

生田緑地は、岡本太郎美術館、藤子・F・不二雄ミュージアム、科学館プラネタリウム等他にも施設もあり、1日中楽しめます。



5



岐阜県白川村の民家



山形県鶴岡市の民家



神奈川県秦野市の民家

【住所】〒214-0032 川崎市多摩区枳形7-1-1

【電話】044-922-2181

【開館時間】3月～10月：9時30分～17時

11月～2月：9時30分～16時30分

【休館日】月曜日（祝日の場合は開園）

祝日の翌日（土日の場合は開園）

【入館料金】一般：550円 高校大学生：330円 中学生以下：無料
65歳以上：330円 市内在住の65歳以上の方：無料

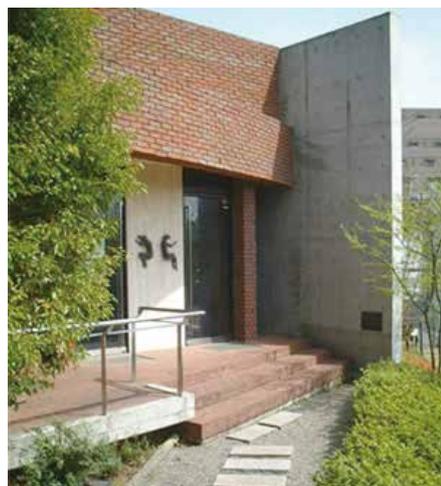
【アクセス】小田急線「向ヶ丘遊園駅」南口から徒歩13分
JR南武線「登戸駅」生田緑地口から徒歩25分
駐車場あり

【Webサイト】<https://www.nihonminkaen.jp/>

光と緑の美術館 相模原支部 スタジオアートクリエイト一級建築士事務所 杉本 勝郎

光と緑の美術館は、相模原市内で初めての個人美術館である。個人美術館には1人の作家だけの美術館。真鶴町の中川一政美術館や鎌倉の鍋木清方美術館がそれにあたるが、もう一つは、一人のコレクターによる美術館があり、光と緑の美術館は後者にあたる。

相模原市在住の鈴木正彦氏が、1994年（平成6年）11月26日に設立したものである。



緑広がる横山公園の傍らにひっそりと建っているこの美術館は神奈川建築コンクール一般建築物奨励賞にも選ばれているが、イタリア20世紀美術（マリノ・マリーニ、ジャコモ・マンズー、エミリオ・グレコ、ペリクレ・ファッツィーニ）を中心に収蔵、展示されている。

6



併設するカフェもとても人気があり、絵画鑑賞の後のひと時を過ごすにはもってこいの設えがされている。

【所在地】神奈川県相模原市中央区横山3-6-18

【開館時間】10：00－18：00

【休館日】月曜日（年末年始、展示替期間）

【アクセス】JR相模線 上溝駅下車徒歩7分

【Webサイト】<http://www.hm-museum.com/>



木造特別委員会活動報告

「木造建築物の基本講座 1・2」

木造特別委員会(旧専門委員会より本年度継承)では、昨年度に続き今年度も木造建築の基本的な内容の講座を大切な知識として開催してきました。現状の小規模木造建築物は建築基準法において、建築士の設計によることで性能に関する多くの項目に対して建築主事への確認が不要で、建築士自身の判断のみで設計及び建築が可能です。

同様に確認申請においては、建築士による申請であればその判断した内容の詳細は特例措置として提示する必要がなく、申請に対しての図書が最小限となるようになっていた。

時代は流れ、いろいろな不祥事事件などの摘発や大きく取り上げる報道などにより性善説による制度設計に陰りが見え、建築主である住まい手自身でもインターネットなどで手軽に建築士の仕事とは何か?安全な住まいとは何か?を知る機会も増えた。大きなきっかけとしては耐震偽装事件である。

この事件を機に確認申請の厳密化が進んできたが、住宅規模などにおいては棟数も多く周知に時間がかかることで継続して構造設計図書の提示については見送られていた。

業界的事情としては、作成する側及び審査する側において対応が適切に進められない可能性が高く、現場において混乱を招く可能性があるということでの経過措置である。

時は流れて第一段階の改正として、2020年に各建築士が作成した設計図書の保存義務の追加措置として、今までの一般的図書の他に構造図及び構造検討図書の保管が義務となる。しかし、この改正では閲覧を求められなければ建築士自身が保管するにとどまった。

そして、この度公表されている内容では、2025年における省エネルギー関係の改正に合わせて付加する断熱性能などによる荷重増加を見込み、構造に関する最低限の要求である壁量の増強が含まれた。しかしながら多様性を重視する社会情勢の中で断熱方法についても多岐にわたることから、今までの簡易検討方法以外に少し踏み込んだ荷重計算を用いた必要壁量の係数を定める方法、従前からありましたが構造計算として広く認識されている許容応力度計算による構造設計も改めて表現に加えられた。

今回の構造検討の流れの中において詳細設計をする場合は自由度が高く、簡易的に設計する場合はかなりのオーバースペックとなるような方針が盛り込まれている。そしてすべての方針において建築主事の確認を受けることが義務となる。

今回の改正は難しく考えがちではありますが、建築の性能としては努力目標であった省エネルギー系の性能が到達

義務に変わり確認申請において確認されることとなった。

これに加え高度経済成長期から始まり阪神淡路大震災を機に性能基準を強化されましたが、以降の生活様式の変化や二酸化炭素削減へ進む社会が望む性能へと最低限度を定める建築基準法が進化することに合わせ実情に合った構造検討へと変化することになる。というのが大きな改正内容です。

今までは努力目標であったこともあり、建築としての性能の差としてコスト重視にするのか?性能重視にするのか?など消費者によって大きく選べた部分が少し集約されることとなります。建築基準法による最低限が変わってしまうので、確認申請上でも厳格に確認が必要となるというものになります。

その中で構造においては前述までの通りに厳格化していく予定であった改正の続きと、今回検討方法の種類が増え自由度が増したことが加わり、確認申請において仕様規定への適合性の提示も義務となる方向です。

私個人としては、エンドユーザーに対して言い訳ができないぐらいにとっても情けない理由であると感じています。設計報酬に対して圧迫が出るなどの議論もありますが告示による建築士報酬は2025年改正による新しく加えられる省エネ義務化に対しての適合証取得業務等以外は、既に含まれているというのが前提です。建物一棟に対しての作業量が多くなり住宅に対してここまでの作業が必要か?と疑問が投げかけられることも少なくないです。しかし、逆の立場になって考えてみましょう。住宅を造るということは多くの方にとって一生に一度、もしくは生涯においての一番大きな買い物になります。その中で建築士へ依頼しているにもかかわらず、法律上緩和があるために検討の記録すら見えてこないとなるとどう思いますか?

建築士として普通に業務をしていれば対応している業務であるので、法改正の適用を遅らせる理由は印刷する経費程度のものである。審査する側にとっても瑕疵担保保険加入時の提出図書や中間検査等において、建築士による監理報告として確認している内容であることから、本来であれば対応に後れを取ることではないものです。

神奈川県建築士事務所協会の多くの会員の方は意識も高く熟知されていることとは思いますが、近年の木材利用推進による設計範囲を木造へ広げる方、常に業務として扱っているが改めて自身の知識を確認されたい方、若手建築士の研鑽の場としての活用など、業務を進める上で常に基本に立ち返れる場を持つことが法定団体として必要と考え、講習会開催を継続しております。

大磯町、平塚市、中井町、秦野市の里山めぐり

(景観・まちづくり特別委員会「まち歩き」)

景観・まちづくり特別委員会 副委員長 大澤 匠

今回町歩きに選んだのは県西部の市町村で、都市化の勢いがそれほど押し寄せていない地域である。東海道線大磯駅に集合、東海道を西に走ると「箱根駅伝」の中継でも有名な松並木。左手には「明治記念大磯庭園」として整備中の大熊重信、陸奥宗光邸、さらに旧伊藤博文邸の「滄浪閣」(復元工事中)、さらに旧吉田茂邸が続く。明治期の重鎮達がこよなく愛した海辺の別荘が今後大磯町にとどまらず県の大きな財産になるであろう。さて我々は東海道を離れて山の方へと向かって進み、新幹線を潜って大磯町寺坂で途中下車した。ここでは今回の案内役である小生が数年前に手掛けた民家再生の仕事を見て頂いた。元は茅葺の農家を再生したもので、戦後その茅を落として平屋となっていた屋根を再び元の屋根の形に戻した再生工事である。茅葺農家の点在が創り出す里山の景観を残したいとの設計者の思いを若い建主が受け止めてくれたのであった。その日は外観だけの見学で残念であった。

次に向かったのは平塚市の西方の山間にある土屋の「原家住宅」である。原家はこの地の旧家で数年前に故有って有形文化財への登録業務を依頼された建物で

ある。敷地は広大で母屋の他に別棟の蔵、茶室、長屋門(移築されたもの)離れ、などが点在している。それらを巡りながら今後ここを活用しながら維持していく方法は無いものかと考えている。

原家を出て山道を下って隣の中井町の「江戸民具街道」を訪れた。ここは個人が収集した民具の博物館で以前から気になっていて今回が初めての訪問であった。この施設の設立者は明治初期に我が国を訪れた米国人の動物学者E・S・モースの書き記した名著「日本の住まい」に登場する当時の日本人の生活に興味を持った建築士(後に施工会社を経営)。彼が長年かけて収集したコレクションを系統的に展示していて、特に「灯り」道具の数と多彩さには圧倒される。蝋燭、油、アセチレン、ガス、電気へと文明化された灯りの変遷を見られるのは嬉しい。しかも使用可能なまでに修復されていて実際に点灯しているのだ。

最後に一行は中井町中央公園でランチした後散会。一部は秦野市の筆者の友人建築家宅を訪れて伝統木構造で設計した家で旧交を深めた。こうして慌ただしかったが充実したツアーは終わったのであった。



大磯町寺坂 | 家再生住宅



平塚市土屋 原家 茶室



平塚市土屋 原家 母屋



江戸民具街道 油行灯



同 油灯台 別名「短檠 たんけい」

賛助会だより

監視カメラからカギのご相談までワンストップにて承ります！

株式会社プライムセキュリティー 永田 寛

株式会社プライムセキュリティーの 永田寛 と申します。

はじめに、簡単な自己紹介をさせていただきます。

私自身、電気通信、セキュリティーマーケットに長年従事し、様々なマーケットのお客様へ安全・安心・利便性をご提案して参りました。

さて弊社は、横浜市戸塚区に本社を置く、オフィスをはじめとする各種の施設や店舗、マンションや戸建住宅などに対応する入退室管理システムや防犯カメラシステムなどの企画・販売・設置・保守を、ワンストップ提供している会社です。

ICカードや顔認証などキーレスによるオフィスなどへの入退室や、現代の情報社会において重要な各種情報の保護に関わる入退室管理、また、茲許、増加する犯罪対策としての監視カメラの設置など、施主様のご要望に沿ったご提案をさせていただきます、弊社にて一元管理することにより、お客様に「安心」「安全」「利便性」を、ご提供させていただきます。

施主様からのご相談などがございました際には、是非とも、お声がけいただければ幸いに存じます。

少しでも、組合様のお力添えになればと思っております。

弊社も、より質の高いサービスをご提供できますよう、一層精進してまいります。

今後とも、よろしくお願いたします。



9

●入退室管理システム

●防犯カメラ

●電子錠



株式会社プライムセキュリティー

〒244-0002 神奈川県横浜市戸塚区矢部町65イエルコロレビル1F

TEL:045-410-9235 FAX:045-410-9236

賛助会だより

太陽光モジュール固定システム「エネブリッド」

アーキヤマデ株式会社 横浜営業所 渡邊 圭人

アーキヤマデ株式会社の渡邊と申します。

日頃は賛助会員として展示会の出展等でもお世話になり、誠にありがとうございます。

弊社は塩ビシート防水を軸とした防水専門のメーカーでございます。



今回は弊社太陽光モジュール固定システムである「エネブリッド」について紹介させていただきます。

近年ではカーボンニュートラルに向けた取り組みの一つとして、建物屋上に太陽光パネルの設置を検討されるケースが増えてきており、「エネブリッド」の採用実績も増加傾向にあります。ではなぜエネブリッドが採用されるのか、3つの特徴に分けてご説明させていただきます。

特徴①防水一体型の基礎+強固な固定

建物屋上へ太陽光パネルを設置する際に、置き型タイプの基礎を使用されるケースがありますが、重量や強風による動き等で防水層を傷つけてしまうという懸念があります。

エネブリッドシステムでは、塩ビシート防水と同素材のディスク型乾式鋼製基礎である「連結ディスクADC」を用いて、防水層(塩ビシート防水)と溶融着接合させることで防水層と一体化します。これにより、基礎まで含めて防水層となる仕組みになります。また、ビスで躯体に対して固定する為、強力な固定力を発揮します。

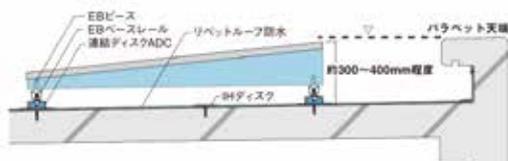


特徴②軽量でさまざまな陸屋根に設置が可能

連結ディスクADCは一個あたり約0.45kgと軽量であり、コンクリート基礎を用いた場合と比較すると、パネルを含めた全体の荷重は約3分の1に抑えることができます。

特徴③低い設置設計で高さ制限にも貢献

エネブリッドシステムでは角度5度での設置を推奨しており、基礎自体の高さも低い為、設置高さを約300~400mm程度に抑えることが出来ます。パラペットを超えない設計であり、高さ制限のある陸屋根へも設置が行いやすいシステムです。



弊社にて割付提案図を作成することも可能ですので、建物屋上へ太陽光パネルの設置を検討される際は、是非ご相談頂ければ幸いです。

アーキヤマデ株式会社横浜営業所
〒231-0011 横浜市中区太田町6-84-2
大樹生命横浜桜木町ビル2階
TEL: 045-661-3563 FAX: 045-661-3562

第44回建築士事務所協会全国大会から

耕一級建築士事務所 伊藤 耕人

この稿が皆さんの目に触れる時はすでに第45回の全国大会が終了しているとの事。

本来は去年に寄稿依頼があり諸事情で先送りにしてもらいその後今回再度依頼があった経緯もあり申し訳ないが前回寄稿しようと思っていた第44回の全国大会参加時の報告をさせていただく。我々座間支部からは、「熊本大会」へ4名が参加した。今回の研修旅行の企画は全て支部長であった私に任せてもらった。震災の状況を確認したかったので調べてみると熊本県では震災関連のプロジェクトで「熊本地震 震災ミュージアム記憶の回廊」と名付けた熊本地震の記憶を未来へ遺し学ぶ回廊型フィールドミュージアムを設置しているとの事で早速事前に各市町村、熊本県に架電申込と手配をお願いし当日見学となった。私たちは、まず「熊本城」見学後レンタカーで施設の中核である「旧東海大学阿蘇キャンパス1号館」を訪れた。あらかじめお願いしていた地元ガイドさんに案内してもらいながらの見学であった。1号館は断層上に建てられている。当該1号館は、山田守先生デザインの東海大学湘南校舎の1号館と同じ形となっておりYの字？Tの字？型校舎の両翼は湾曲していない為耐震補強がなされており殆んど損傷ない。中心部の湾曲している部分は損傷が激しいが倒壊は

まぬかれている。何故倒壊までしなかったか、研究者の間で議論があるようだ。一部研究者は、屋上にデザインされた貯水層の水が制震の役目をしたのではという見解を述べているそうだ。非常に興味深い話を当時の状況を踏まえ丁寧に伝えてくれるガイドさんには感謝しかない。続いて南阿蘇村の旧長陽西部小学校に設置された「震災伝承館 轍」へ。この伝承館は、震災からこれまでの歴史や阿蘇地域の巨大な立体模型と共にプロジェクションマッピングで分かりやすくメカニズムを解説するなどテーマごとのブースに分けた展示がされている。最も印象的であったのは、当該建物に設置してあるEXPの壊れ方であった。改めてEXPの重要性に気づかされる。貴重な視察であったが、まだこれはほんの一部でしかない。今年の7月15日には、「熊本地震震災ミュージアム KIOKU」もオープンした。改めて機会を作り訪ねてみたい。(ご興味のある方は伊藤まで)

最後に我が座間支部は今年度、私から吉田さんに支部長が交代した。在任中の関係各位の協力には感謝しきれない思いである。この度、本会でも体制が刷新された。文句も言わず会費を払ってもらっている会員のために何が出来るかを愚直に考える会であってほしい。これを肝に銘じ私は今後も活動したい。

11



旧東海大学 阿蘇キャンパス



同阿蘇キャンパス 1階柱せん断破壊状況



同阿蘇キャンパス 1階せん断破壊状況

旧東海大学 阿蘇キャンパス手前耐震改修無し
奥のキャンパスは耐震改修済み震災伝承館 轍
EXP 過度な変形追従

震災伝承館 轍 EXP 外部

旧桔梗屋の利活用に向けて

有限会社アトリエフジオカー級建築士事務所 藤岡 裕

藤沢市では、旧東海道藤沢宿街なみ継承地区にある、旧桔梗屋の利活用に向けて「サウンディング型市場調査」を行っている。旧桔梗屋とは、江戸時代から藤沢宿にて茶や紙の間屋を営んでいた旧家であり、店蔵、母屋、文庫蔵の3棟が国登録有形文化財である。

特に店蔵は、外観、内部共に建築当初(明治44年)の姿をよく残しており、関東大震災前の「蔵の町」としての様相を伝える貴重な存在であり、また南関東に残る唯一の店蔵である。

市は、令和2年に建物部分の寄付を受け、敷地全体を取得し、この貴重な「旧桔梗屋」を適正に保全しつつ有効に活用する為、様々な取り組みを行っている。

今回の調査は、民間事業者による活用の可能性を把握し、柔軟な発想や視点に基づく事業アイデア等、幅広く意見を収集することを目的にしているようである。

支部としても、事前にサウンディング型市場調査への参加意向等のアンケートの依頼を受け9社が意見を述べている。市としては、耐震改修工事をはじめ全体の保全計画も含めた事業提案を期待しているようだ。市への譲渡が決まる以前に当社は、元所有者の依頼を受け、文化財建造物を維持することを条件とした売却先を探す事業に携わっていた経験があるが、民間事業者が文化財建造物を保全する、経費を負担して、収益を見込む事は、難しいのではないかと考えている。このサウンディング型市場調査の結果は、

12月末頃を目処に公表されることとなっているが、どのような利活用計画が提示されるか期待される場所である。

立地的にも街道沿いの目に止まる場所にあり、藤沢宿のシンボルとして、旧桔梗屋の敷地が、藤沢宿交流館にふさわしく、現交流館の位置付けも再考しながら、市が運営する藤沢宿関連の施設(藤沢浮世絵館等)を含めて、再編することなども選択肢の一つになるのではないかとと思われる。

支部としても、より良い利活用が実現するよう協力してゆきたいと考えている。



店蔵・主屋東面



店蔵2階



旧桔梗屋南面全景

神事協賛助会フェア報告

神事協賛助会フェア報告

会報誌編集特別委員長 (株)アスデック建築事務所 小泉 厚

昨年に引き続き今年も賛助会フェアが秋晴れ（残暑でしたが）の9月26日（火）27日（水）の2日間、大和市文化創造拠点シリウス1階芸術文化ホールギャラリーで開催されました。

今年は賛助会フェアの名称を「住まい創造フェア」とし～建築の夢！未来への架け橋～をテーマに昨年より5社多い22社が出展し、最新建築技術及び製品・施工例の展示の他、技術セミナーが開催されました。

昨今、カタログ等はWEB化され、視覚のみでの選択が多い中、やはり担当者から生の説明を受けることで理解度が深まり、更なる情報を得、サンプル等で実際の素材感や使い勝手等を確認められることが、このフェアのメリットかと思いました。

また、会報誌に連載している「賛助会だより」の顔写真掲載の担当者がブースにいることで親近感が増し、これこそ「オールかながわ」として築かれた賛助会と会員との関係ではないかと思いました。

入場無料！！

最新建築関連総合展示会&セミナー

住まい創造フェア

～建築の夢！未来への架け橋～

最新建築技術及び製品・施工例の展示の他、技術セミナーも開催します。
出展企業とテーマ、セミナー開催企業と内容については裏面をご参照下さい。一般の方も無料でご入場頂けます。

開催日時

2023. 9. 26 (火) 13:00～17:00
9. 27 (水) 10:00～15:00

開催場所

SIRIUS(大和 culture 創造拠点シリウス) 1F
芸術文化ホールギャラリー
神奈川県大和市大和南一丁目8番1号
小田急江ノ島線・相鉄本線 大和駅から徒歩3分

主催：(一社) 神奈川県建築士事務所協会 賛助会
後援：(一社) 神奈川県建築士事務所協会



セミナー風景



開場前のミーティング風景



展示会場風景-1



展示会場風景-2



会場となったシリウス

出展企業

- ・三興商事(株)
- ・日成ビルド工業(株)
- ・タキロンマテックス(株)
- ・(株)三菱地所住宅加工センター
- ・(一財)神奈川県建築安全協会
- ・福井コンピュータアーキテクト(株)
- ・日学(株)
- ・(株)総合資格
- ・シーカ・ジャパン(株)
- ・ニチハ(株)
- ・エスケー化研(株)
- ・ケイミュー(株)
- ・セイキ販売(株)
- ・日本ERI(株)
- ・(株)プライムセキュリティー
- ・(株)都市計画地盤研究会
- ・積水ホームテクノ(株)
- ・(株)アイジーコンサルティング
- ・(株)サンクビット
- ・(株)互光紹介
- ・田島ルーフィング(株)
- ・エーアンドエー(株)

(順不同)

新入会員の紹介

横浜支部

有限会社設計組織スーパーノーヴァ 村尾 眞史
〒226-0013横浜市緑区寺山町89-5-401
TEL.045-937-7058/FAX.045-937-7059

川崎支部

株式会社西尾建築設計一級建築士事務所 西尾 豪
〒213-0015川崎市高津区梶ヶ谷3-2-8 Nビル
TEL.044-871-2482/FAX.044-871-2483

鎌倉支部

山田博也建築設計事務所 山田 博也
〒248-0013鎌倉市材木座5-11-3
TEL.090-1200-1680/FAX.0467-91-2635

退会者

川崎支部

シグマ建築構造研究所 堀 富博

変更

横浜支部

株式会社三光ビルサービス社一級建築士事務所
(指定代表者変更)
大矢 修

東京セキスイハイム株式会社神奈川支店一級建築士事務所
(指定代表者変更)
高田 治雄

鹿島建設株式会社横浜支店一級建築士事務所
(所在地変更)
〒220-0012横浜市西区みなとみらい3-3-3
横浜コネクスクエア6階

三菱重工交通・建設エンジニアリング株式会社本部一級建築士事務所
(所在地、TEL変更)
〒231-0812横浜市中区錦町12
TEL.045-629-1267/FAX.045-629-1260

賛助会入会者

株式会社カンキョー防災

支部名	令和4年4月1日	現在	入会者	退会者	増減
横 浜	254	262	11	3	8
川 崎	107	112	6	1	5
横 須 賀	49	49	0	0	0
湘 南 三 浦	16	20	4	0	4
藤 沢	36	36	0	0	0
鎌 倉	42	42	2	2	0
茅ヶ崎寒川	15	15	1	1	0
平 塚	21	22	1	0	0
秦 野	13	13	0	0	0
伊 勢 原	6	7	1	0	1
大和綾瀬	18	18	0	0	0
厚 木	30	30	0	0	0
座 間	11	11	0	0	0
海 老 名	15	16	1	0	1
愛 川	6	6	0	0	0
相 模 原	61	64	3	0	3
県 西	37	38	1	0	1
合 計	737	761	31	7	24
賛助会員	88	98	10	0	10

※退会報告等の状況により会員数は常に変動しております。
※入会者、退会者には支部間の異動も含まれます。

編集者のつぶやき

TVでは、旅番組は不滅である。古くは兼高かおる世界の旅(古い!!)から始まって様々な趣向の旅番組が登場し、今では電動バイクで旅の行く先々で充電させてもらいながら旅を続ける、超低コストの旅番組まで存在する。その中でも根強い人気なのは、鉄道にまつわる旅番組。

乗り鉄旅、呑み鉄旅、撮り鉄旅、音鉄旅等々様々なジャンルの中で、筆者がのめり込むのは、呑み鉄旅である。

最近では、出張の際 三陸鉄道、土佐くろしお鉄道、しなの鉄道、あいの風とやま鉄道等のローカル線に乗ることがあり、移動時間の合間に 呑み鉄旅を堪能している。

駅弁を肴に、ビール、地酒を車窓を見ながら味わう至福の時。これだけは やめられまへんわー。
(相模原支部 スタジオアートクリエイト一級建築士事務所 杉本 勝郎)



駅弁とお酒



高松琴平電気鉄道



三陸鉄道



土讃線



予土線

KANAGAWA 令和5年11月号 (通号447号)

発行 令和5年11月1日 (奇数月1日発行)
発行人 平山 正義
発行所 一般社団法人 神奈川県建築士事務所協会
〒231-0032 横浜市中区不老町3-12 加瀬ビル201 2F
TEL. 045-228-0755 / FAX. 045-212-3807
印刷所 株式会社 柏苑社

担当副会長 小松 正道
担当理事 田中 正幸
会報誌編集特別委員長 小泉 厚
会報誌編集特別副委員長 仙波 弦
会報誌編集特別委員 雨森 隆子 小河 泰隆 森本 和樹
戸井田 顕 中原 尚代 杉本 勝郎
長川 勉
事務局 小林 恵美



今月の表紙

Kアリーナ横浜

Kアリーナ横浜は、世界最大級の音楽ライブ専用施設です。アリーナとホテル・オフィス棟で構成され、横浜・みなとみらい21（MM21）地区のにぎわい創出が期待される「Kアリーナプロジェクト」の核となっています。観光・エンターテインメントを軸にしたまちづくりを進める横浜市が再整備を行う方針を掲げたエリアに、今年の9月29日に開業したばかりの施設です。

（表紙写真・文／仙波 弦）

『わが恩師を語る』寄稿文 募集

令和6年5月号より連載が始まる特集『わが恩師を語る』の寄稿文を会員の方々より募集します。

設計事務所の所長・先輩、学校の先生、現場の所長等、建築関係で自分が恩師だと思う方々を語ってもらえる場とします。

●仕事への姿勢やエピソード、教えなど内容は自由です。

●見開き2ページ、文字数1200字程度、写真5～7枚

寄稿ご希望の方は事務局 担当 小林へご連絡いただければと思います。ご連絡先→045(228)0755



一般 神奈川建築士事務所協会
社団法人 Kanagawa Architect Office Association